

会議録（会議結果概要）

名称	第3回 各務原市緑の基本計画策定委員会
開催日時	令和7年6月5日（木） 13:10～14:50
開催場所	産業文化センター 7階 第1大会議室
出席者	川口暢子委員長、大野暁彦副委員長、並木祐之委員、松原史尚委員、木村徹之委員、永田美帆委員、尾関純子委員、斉藤義雄委員、森田起宇委員、村瀬誠委員（代理 立元克也）、川口雅慎委員
議題及び 審議・協 議結果等 の概要	次第 1 開会 2 委員長あいさつ 3 議事 （1）都市公園の整備及び管理の方針 （2）グリーンインフラの推進に関する方針について （3）緑の施策について 4 閉会
	1 開会 事務局より説明 2 議事 （1）都市公園の整備及び管理の方針 （2）グリーンインフラの推進に関する方針について （3）緑の施策について 議事（1）（2） 【委員】 ・ アンケート結果をみると、公園を利用する大人と子供の意見は相反するようなものと感じたが実情はいかがなものか。子供が大勢いて、賑わっている公園が地域にあると良いと思う。 【事務局】 ・ 例えばボール遊びについては、ボールが家に飛び込むことや騒ぐ声が必然的に大きくなることから、近隣からご意見をいただくことがある。 ・ 昨年の事例では、ボール遊びを求める自治会要望に対して、防球ネットを設置しようとしたが、隣接宅の理解が得られず断念したことがあった。

議題及び 審議・協 議結果等 の概要	【委員】 ・ 全国的には、公園管理を行政が行う流れになっている中で、自治会やパークレンジャーによる活動が活発に行われており、すでに共助の社会が成立しているため、基本計画の中でしっかりと記載する方向性で良い。 ・ 新たなニーズに対するフローチャート（P.32）が掲載されているが、公園に関わる人の意見がしっかり集約できるかが重要になってくる。特に最初は行政も介入して丁寧に進めていくプロセスが必要である。 ・ 市として一定水準のサービスの提供は必要なため、公園に求められる避難場所、健康づくりの場所、ボール遊びができる場所など偏在なく配置されているかに気をつけていただきたい。 【委員】 ・ コロナ禍で中止していた夏祭りを昨年ようやく再開した。再開に反対する声も大きく大変だったが、結果的に開催して大成功だったと思う。公園の草刈りなどの管理も必要だが、地域に緑（公園）があるという環境は非常に大切だと感じた。 【委員】 ・ 市内には企業が多くあるため、SDGs スポンサー企業のように、この公園はこの企業がサポートしているような施策があっても面白いのではないかなと思う。 【委員】 ・ 構成について、施策がフィールドごとに分類していることから、フィールドごとの課題、方針の記載があると構成が明確になる。 議事（3） 【委員】 ・ 朝日地区の集約される公園がある地域に在住しているので寂しい思いがある。 ・ 集約されると子供が遠くの公園に行かなければならないことになのではないかな。 【事務局】 ・ 公園の再編計画は、自治会のご意見をききながら立案しました。公園のバランス、配置については考慮しています。
---------------------------------------	--

【委員】

- ・ 公園の誘致距離は全部 2 5 0 m の円の範囲か。端部において誘致範囲外が見受けられるが問題ないか。

【事務局】

- ・ 街区公園のため半径 2 5 0 m としている。概ね包括されており、エリア南西は市街化調整区域になっている。

【委員】

- ・ 緑の施策の一つで花苗講習会を実施しているが、年々参加者が少なくなっているのが気になる。

【事務局】

- ・ 花苗団体の申込数は、春秋それぞれ約 2 0 0 団体で推移しており減少していない。一度でも講習会を受講した人達が、団体内で講習内容を周知してくださっている。

【委員】

- ・ 市内には各務原アルプスや東海自然歩道など散策道があり、昨今の登山ブームやフレイル予防として一時期に比べて利用者の割合がすごく増えていると感じている。散策道の維持管理についても施策の 1 つになると思う。

【委員】

- ・ 緑の募金や森林環境譲与税などを活用して散策道を整備している。

【委員】

- ・ サイクリングロードが市内で 8.3 k m 繋がっている。行政の管轄エリアも異なると思うが、愛知県側も含めてマラソンができるような周遊コースができると面白い。このポテンシャルを活かしていくべきだと思う。

【委員】

- ・ 国（木曽川上流河川事務所）が中心となって、流域市町・県と協議会を立ち上げて進めている。

議題及び 審議・協 議結果等 の概要	【委員】 ・ 世界的にヘルシーシティのように健康づくりと緑は結び付けられており、緑の効果も研究データとして公表されている。緑の施策への位置付けを検討いただきたい。 ・ 昨今造園業者の世代交代が上手くいっていない話をよく耳にする。質の高い造園管理が実施できている市内での実績は国内でも誇れるべきものである。技術の継承・造園業者の育成についても、計画の中で推していける特徴ではないか。 ・ 先日の学びの森の枝落下のような事故は今後全国で発生する。どこかのタイミングで植え替えの選択枝を考えないといけないが莫大な費用がかかる。次の10年、20年を考える上で、並木道を少しずつ更新していくことも考えていかなければならない。 ・ そのための苗木を育てることや、伐採した処分木のチップ化など循環させる取り組みも施策にぜひ取り入れていくべきだと思う。 【事務局】 ・ 学びの森の枝落下について説明。 【委員】 ・ 樹木も生きものなので確実に防ぐことは不可能で、街中では人が全く立ち入らないこともできない。それでもリスクを優先するとおそらく街中から木（緑）が1本もなくなってしまう。 【委員】 ・ 今回の事案に限らず、これまでも落ち葉の問題など様々な意見があったと思いますが、今までの緑化施策の取り組みをぜひ継承いただきたい。 ・ ドローンやレーザースキャン、AI診断など新たな技術の活用も検討の一つかと思う。 【事務局】 ・ 本日出た多くの意見は、施策を検討する上で参考にさせていただく。
会議資料	資料1 各務原市緑の基本計画策定委員会委員名簿 資料2 都市公園の整備および管理の方針 資料3 グリーンインフラの推進に関する方針について 資料4 緑の施策について
備考	